

しゃげうじやまいせき

社家宇治山遺跡

(海老名市No.76遺跡)

調査期間 20030303～20080229

所在地 海老名市社家 3636－
1他

時代
弥生時代
古墳時代
古代
中世
近世



概要

本調査は、中日本高速道路横浜支社厚木工事事務所による、東名高速道路改築に伴う事前調査として行っています。本遺跡は、海老名市の南西部、JR相模線社家駅の北西約0.3 kmに位置し、相模川左岸の沖積微高地(自然堤防)上に立地しており、遺跡の東側には後背湿地が広がっています。

中近世の遺構としては、竪穴状遺構、掘立柱建物址、井戸址、土坑、溝状遺構、ピット、畝状遺構などが発見されています。これらの遺構は、社家地区に展開していた15世紀～16世紀の屋敷地、近世の屋敷地に付随する掘立柱建物址、井戸址、屋敷を区画するための溝状遺構などと考えられます。

奈良・平安時代では、遺跡の北側を中心に住居址、掘立柱建物址、井戸址が多く発見されており、7世紀～8世紀に属する集落が展開していたと考えられています。また、南北線e区では、昨年度調査で発見されている道状遺構の延長が確認されており、8世紀前葉～10世紀前葉に相模川の自然堤防に展開していた集落の東側に造られたものと考えられます。

古墳時代～弥生時代の遺構は、竪穴住居址、方形周溝墓、溝状遺構、古墳、土坑、ピットなどが発見されています。集落は、遺跡の北側を中心に発見されており、玉造工房址も発見されています。方形周溝墓群は、主に遺跡の南側で発見されています。神奈川県内の低地において、古墳時代前期の方形周溝墓群が発見された数少ない事例で貴重なものと考えられています。



▲古墳前期方形周溝墓群



▲方形周溝墓出土遺物



▲円墳